

いわちゃん ポスト

千葉県議会議員

岩井 やすのり



1970 年生まれ 51 歳 専大卒・早大院修了 3 期目現職(印西市・栄町選挙区)

栄町安食台 2-26-23-202 fax0476-36-7802 mail@iwai-y.jp

児童生徒に 1 人 1 台端末 「フリーズ」に追われる教育現場

小中学校でいかに実現した一人一台端末。しかし、端末やネットワーク環境に不具合が生じ、児童生徒が授業から置き去りにされたり、教員が対応に追われたりするなどの問題が生じています。

●他にない高負荷 学校現場でトラブル

令和元年に文科省が発表した「1人1台端末」構想。全国の小中学校で「1人1台端末（タブレットまたはノート型パソコン）」と「高速大容量の通信ネットワーク」を整備することで、創造性を育む教育を実現するというプロジェクトです。1人1台端末については、2年度は「道半ば」のはずでしたが、コロナ禍での遠隔操作に対応できず、全国の96・2%の自治体で1人1台端末が達成されています。



さて、ICT教育の現状についてお話を伺うため、印旛郡市内のある小学校を訪れたのは今年9月のことです。教室を覗く

と、「チームズ」という遠隔コミュニケーションツールを体験しているところで、児童が校内でバラバラになった上で、教室に残る先生と端末越しにやり取りをしています。そんな中で気になったのは、端末が「フリーズ（動かなくなる）」してしまい、授業を進行させるためにその生徒を「置き去り」にせざるを得ないことです。

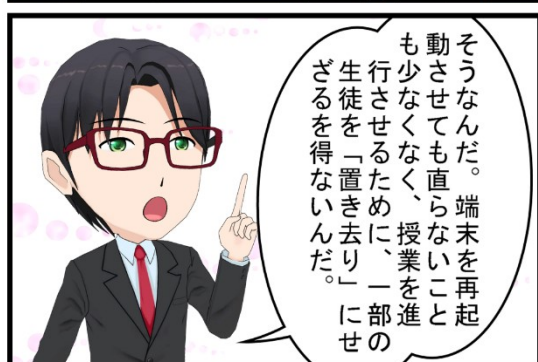
このフリーズが発生するのは端末本体の問題だけでなく、学校内ネットワーク環境のせい弱性、一斉に運用することによるクラウド上のトラブルも原因として考えられるとのこと。文科省では使用する端末やネットワーク環境について、予め基本スペック（性能についての基準）を定めていたものの、学校現場では人数が一斉に起動することとなり、予想だになかったトラブルに見舞われているのです。

●知事に直談判 支援員の拡充を求め

また、小中学校現場での1人1台端末の整備が達成されたとはいえ、効果的なICT教育の実現のためにはそれを支える人的支援が不可欠。特に教員からの相談に乗り、授業計画の作成や校務システムの活用等、日常的なICT活用の支援を行うICT



小中学校で1人1台端末（パソコン）が実現しましたが、場所によっては端末のフリーズが相次いでいると聞きました。



そうなんだ。端末を再起動させても直らないことも少なくなく、授業を進めさせるために、一部の生徒を「置き去り」にせざるを得ないんだ。



フリーズ端末本体や学校内のネットワーク環境などに原因があると思われるんだけど、他の環境にない高負荷を強いられて、想定外のトラブルに見舞われている形なんだ。



熊谷県知事にも直談判して、一刻も早い改善を求めています。

園児を守る

通園路の速度規制強化へ～星虹第2保育園

●通園路・通学路なのに法定速度・60キロ規制

八街市内で下校途中の児童が死傷する事故が発生したのは今年6月のこと。そもそも飲酒運転であったことなど、不備や不幸が重なった末の事故でしたが、現場となった市道に速度規制が設けられていなかったことも問題視されています。

事故現場の市道は、歩道も外側線もガードレールも設置されていない小学校通学路。時速30キロを超えると、歩行者と衝突した際の致死率が高くなると言われる中、法定速度である時速60キロの走行が認められていたことは、大きな問題であったと言えます。

一方、千葉NT中央駅南側にある星虹第二保育園でも同様の問題に直面しています。同園は130名もの園児が通う認可保育園。園児の多くが園脇を走る市道を横断して登園していますが、同市道はそもそも道路幅が狭い上、やや折れ曲がった形状。やはり速度規制が設けられておらず、法定速度である時速60キロでの走行が認められています。結果、通過車両のスピードは様に速い状況で、園児や保護者が横断する際に車やバイクに接触しないかと、同園関係者から不安の声が上がっているのです。

実は、小学校や幼児施設が非市街地に設置さ

れるケースは少なくありません。道路の基準速度を決める際に用いられる交通規制基準（警察庁）では、非市街地は市街地に比べ規制が緩和されており、最高速度が高く（速く）設定されがち。通学路等においては基準を超えて規制強化できているものの、県警として県内の状況を十分把握できているとは言えず、大事故でも発生しなければ規制速度が変更されない現実があります。



●県議会にて問題提起 県警から前向き回答

9月県議会にて登壇した岩井は、こうした問題を指摘した上で、県下通園路等の現状を把握し、国の交通規制基準で認められる速度規制強化等の抜本対策を講じるよう要望。また、10/18には星虹保育園関係者とともに印西市長、印西警察署を相次いで訪れ、保育園周辺道路の速度規制をはじめとする安全対策の強化を求めました。

警察当局からは既に前向きな回答が得られているところですが、いち早い対策が講じられるよう引き続き働きかけを行ってまいります。

支援員はなくてはならない存在ですが、現制度では小中学校4校に1人のみの配置で、担当者が日ごとに各校を回っている状況なのです。9月県議会の一般質問ではこの問題についても取り上げ、ICTへの対応を迫られる教員を支え、より効果的な授業展開をサポートするICT支援員の拡充を強く要望。特に熊谷知事自身、ICT教育における人的支援の重要性を指摘されていたことから、一般質問に先立って知事に直談判で要望したところです。

ただでさえ多忙な学校教員。一足飛びで進むICTに対応する負担を減らすためにも、ICT支援員の拡充に向けた働きかけを続けてまいります。

ジョイフルアスレティック南側交差点 信号機設置を要望

子どもや高齢者の利用が少なくない、印西市牧の原のジョイフルアスレティッククラブ千葉NT店南側T字路交差点。周辺交通量が増加する中、同店関係者などから聞き取り調査を行った上で、地元町内会長とともに信号機の設置要望を行っています。

●ジョイフル教室 ジュニアだけで千五百人

いわちゃんポスト4月号にて、園児のお散歩コースや保育施設前の交差点など、危険箇所についての情報提供を呼びかけた「園児を守る110番」。今回寄せられたのは、多くの子どもが通う民間スポーツジムに隣接する交差点についてです。

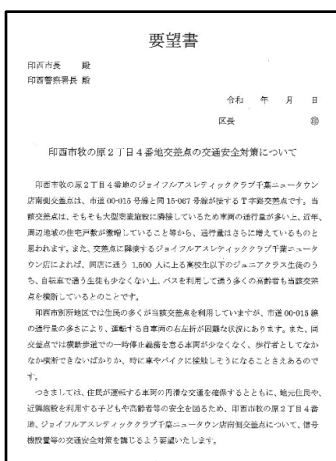


ご連絡いただいたのは、ジョイフルアスレティッククラブ千葉NT店に子どもを通わせているというお父さん。スイミング等で大勢の子どもたちが通う中、隣接交差点の交通量が多く、危険で心配になると言うものです。後日、お父さんとともに交差点を確認すると、カーブを進んできた車両から視認されにくく、ジョイフル本田駐車場出口も近接しているため、歩行者が横断歩道を渡ろうとしてもなかなか停まってもらえません。

さらにアスレティッククラブの責任者からも話をうかがうと、同店には高校生以下のジュニアクラスに1,500名に上る生徒が在籍し、自転車で通うケースも少なくない上、バスを利用して通う多くの高齢者も同交差点を横断しているとのこと。事故を未然防止するための信号機設置の必要性を訴えます。

●別所地区・町内会長名による要望書

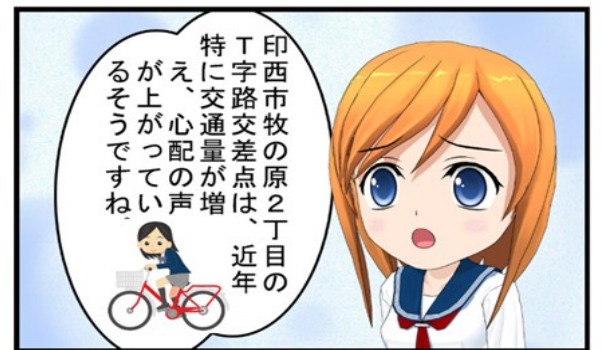
ところで、信号機設置や速度規制の新設などを求める場合、警察署は地元住民の考えを重視することから、町内会長の同意を得ることが肝心です。そこで何とかツテを頼り、地元別所地区の町内会長さんに話を持っていくことができたのは8月のこと。これまでの経緯、アスレティッククラブ側の考え等を説明すると、町内会長さん自身、歩行者が車に接触しそうになるのを見るなどして危機感を覚えていたと話します。別所地区住民も多くが同交差点を利用しており、信号機が設置されればありがたいとして、信号機設置についての要望書をお作りいただきました。



●印西市長、印西警察署長を訪問

町内会長さんとともに印西警察署を訪れたのは9/17。印西警察署長に対し、住民が運転する車両の円滑な交通の確保と、地元住民や近隣施設を利用する子どもや高齢者の安全を図るため、信号機設置等の交通安全対策を講じるよう要望。また、直後に訪れた印西市役所にて、板倉印西市長に対しても同様の要望を行っています。

県に寄せられる、毎年千件を超える信号機設置要望のうち、実現するのはわずか1割ほど。とはいえ、今回は特に必要性が高いと思われる交差点ゆえ、何とか早期設置がかなうよう強く働きかけてまいります。



柏児童相談所 空調故障のまま半年超

設置から50年近くが経過した柏児童相談所。設備に関する構造上の問題から、今年2月以降半年以上にわたり空調機器が故障した状況が続いており、子どもたちは厳しい夏を過ごさなければならませんでした。

●配管に不具合～修理もままならず

野田市小4女児虐待死事件で注目を浴びた柏児童相談所。建物の老朽化が激しいことに加え、職員的大幅増員による執務室の狭あい化も進んでおり、数年以内の施設移転が予定されています。そのような中、空調機器が故障したのは今年2月のこと。相談室や教室など約半分の部屋で稼働しなくなり、子どもたちや職員は、暖房のない状況で冬の寒さをしのがなければならなくなりました。



廊下下に埋められた配管

柏児童相談所の空調は、ガスにより吸収冷温水器を稼働させ、冷水や温水を配管に循環

柏児童相談所 空調機器故障の経緯

3年2月	初回認知(スイッチを入れても稼働しない)、業者4社へ調査依頼するも断られる
3年5月	新たに業者2社に調査依頼するも、補修対応はできないとの回答
3年6月	ガス空調の代替としてエアコン設置の見積もりを行ったが、電気容量が足りず、全部屋設置が難しいことが判明
3年7月	これまでの調査結果から、既存の空調機器の修繕は難しいと判断

させるというファンコイル冷暖房。しかし、その配管溝は子どもたちが行き交う廊下の下に埋められ、かつ人が入れるスペースも設けられていません。結果、日々の運営を止めるわけにいかない児童相談所において、配管の欠損箇所を見つけることができなかったのです。さらに、電気を動力源とするエアコン設備を導入しようにも、電気容量が大幅に不足していること、敷地が狭く、室外機を設置するスペースが取りづらいことから、代替案を見出せずにきてしまったものと言えます。

●9月県議会で取り上げ～1月復旧見込み

情報が寄せられ、柏児相の現地確認を行った8月、児童が過ごすホールや一部教室の他、職員執務室も冷房が稼働していませんでした。新たに扇風機25台、冷風扇6台を導入し、また保冷剤等も購入したというものの焼け石に水。子どもたちは空調が効く狭い食堂で、一日の多くの時間を過ごさなければならぬ一方、職員も扇風機だけの執務室で汗だくとなって働く毎日でした。

9月県議会にて取り上げた際にも対応方針が定まらない状況でしたが、11月になり、ようやく年明け復旧の目途が立ったところです。

●県内児童相談所の調査求める

さらに心配なのは、他の児童相談所で同様の問題が発生する懸念がないかということ。老朽化や狭あい化が進む児童相談所施設は少なくなく、同様の問題がいつ発生してもおかしくない状況です。構造上対応が難しい空調設備を持つ児童相談所がないか調査を進めていくこと、またそういった懸念のある施設については、問題発生時に迅速に対応する準備を整えるよう、県への働きかけを行っています。